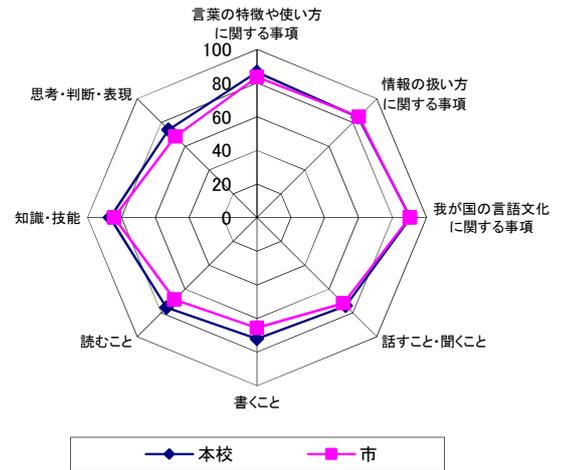


宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 86.6 | 83.6 | 80.3 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 84.4 | 85.0 | 78.9 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 90.5 | 90.2 | 84.2 |
| | 話すこと・聞くこと | 74.1 | 72.1 | 67.8 |
| | 書くこと | 72.1 | 65.5 | 51.8 |
| | 読むこと | 75.6 | 68.9 | 57.8 |
| 観点別 | 知識・技能 | 86.7 | 84.4 | 80.5 |
| | 思考・判断・表現 | 73.9 | 68.2 | 57.4 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

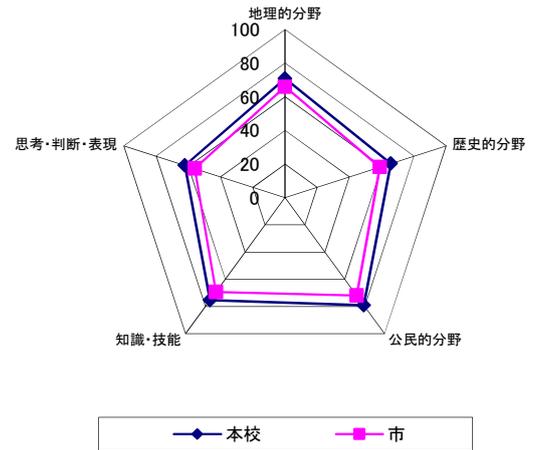
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|--|--|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <p>○領域の平均正答率は市の平均正答率を3.0ポイント上回っている。8問中7問で、市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●小学校で学習した漢字を正しく書く問題では3問中1問が市の平均正答率を下回っている。漢字を書くことにおいて、やや課題が見られる。</p> | <p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>○今後の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校で習った漢字については授業中に触れ、漢字ワークで復習する、といった流れを作りたい。また、小学校で習った漢字についても、間違いやすいものについては注意する部分を授業中などに適宜指導したい。 ・漢字の読み書きに関しては、定期的に漢字テストを行い、基礎的な力を養うことが不可欠である。また、普段の生活においても、漢字を意識的に使うよう指導し、読みと書きのバランスの取れた力を育てていきたい。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | <p>●領域の平均正答率は市の平均正答率を0.6ポイント下回っている。(1問中1問)</p> <p>●情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っていることを確認する問題で市の正答率を下回っており、情報の関係の表し方について、やや苦手の様子が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・文章中の情報の要点をとらえ簡潔にまとめる力を身に付けさせるために、教科書で扱う文章や新聞記事の論説等を短い字数で要約する活動を実施する。 ・グラフや表、図などの表し方や特徴などについて、説明的文章の授業を中心に触れて指導する。 ・語句指定がある記述問題や条件のある作文などの活動に取り組み、情報を正しく取捨選択するようにさせる。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <p>○領域の平均正答率は市の平均正答率を0.3ポイント上回っている。平均正答率が約90%と高水準にあることから、現代語訳を手掛かりに古文を読む力はついてきているといえる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書で古典分野を扱う際には、歴史的仮名遣いや古語の意味についての指導を、引き続き丁寧に行う。 |
| 話すこと・聞くこと | <p>○領域の平均正答率は市の平均正答率を2.0ポイント上回っている。3問中2問で、市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することを確認する問題の正答率が市の平均正答率を下回っている。分かりやすい表現の工夫において、やや課題が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りテストを行うだけでなく、普段の授業で板書しない発言などをメモさせたり、発言の要約や意図を問い、口頭ではなく記述させる活動を適宜行ったりする。 ・授業の中で、他教科とも関連させながらわかりやすい表現を意識したスピーチ的活動を実施する。 ・書くことの指導においても、分かりやすい表現を意識させ、話すこと・聞くことにもつなげる。 |
| 書くこと | <p>○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.6ポイント上回った。すべての問題で市の平均正答率を上回っている。どの問題も全国の正答率を大きく上回っていることから、記述問題でも、しっかりと自分の考えを記述し、おおよそ的を得た答えを書いていることが分かる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・読み取った情報と情報との関係を整理・理解した上で記述する力を伸ばすため、記述させる前に読み取った情報を整理できるような発問やワークシートの利用などの工夫を行う。 ・条件に合った文章の構成になるよう、作文用紙の使い方の基本を意識させる。 ・定期テストでも記述問題を設定したり、授業でも自分の考えを書かせる活動を取り入れたりして、記述の力を伸ばす。 |
| 読むこと | <p>○領域の平均正答率は市の平均正答率を6.7ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●文章の論理の展開の仕方を捉える問題では市の平均を上回っているものの、同じ領域の他の問題に比べ正答率は低く、課題が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・論説文における構成の仕組みや展開の流れについて整理させる。 ・説明的文章については、新聞の記事を読ませることで、論理的に説明していく文章の形式に親しませる。 |

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 地理的分野 | 70.8 | 66.0 | 57.8 |
| | 歴史的分野 | 65.6 | 58.9 | 51.4 |
| | 公民的分野 | 79.1 | 72.0 | 72.2 |
| 観点別 | 知識・技能 | 75.4 | 69.3 | 62.9 |
| | 思考・判断・表現 | 62.1 | 56.0 | 49.1 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

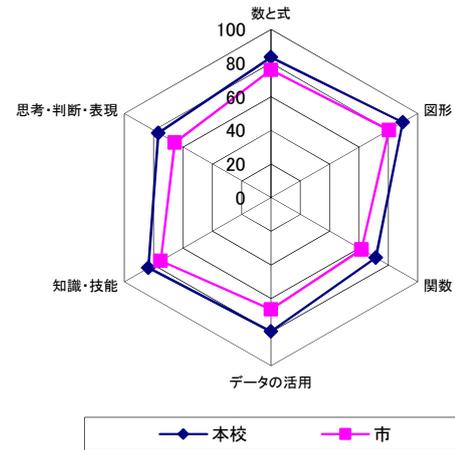
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|---|
| 地理的分野 | <p>○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.8ポイント上回っている。</p> <p>○1問を除き、市の平均正答率を上回っており、中でも「日本の各地方の自然環境」に関する問題は市の平均正答率を12.9ポイント上回った。</p> <p>●「日本の資源の輸入先についての理解」を問う問題で5.9ポイント下回った。</p> | <p>・世界の石炭生産量の1位が中国だが、日本の石炭の輸入先上位がオーストラリアであることは理解しているが、世界の石油生産量の1位がアメリカで、日本の石油の輸入先が西アジアであることの理解が不十分であった。「世界の中の日本の特徴」という視点で確実な知識の定着を図っていく。</p> |
| 歴史的分野 | <p>○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.7ポイント上回っている。</p> <p>○「幕府の政治改革についての理解をもとに資料に着目して判断する」問題では、市の平均正答率を13.3ポイント上回った。</p> <p>●「明治初期に結んだ条規について、資料をもとに判断する」問題では、市の平均正答率を0.8ポイント下回った。</p> | <p>・単元を貫く学習課題を設定し、学習のまとめとして自分の考えを論述する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める指導を心掛けていく。</p> <p>・幕末の不平等条約から明治期の条規までを整理し、近代国家になっていく過程の日本の立ち位置を区別して考えられるようにするなど、資料集等を活用して判断できるように指導していく。</p> |
| 公民的分野 | <p>○領域の平均正答率は、市の平均正答率を7.1ポイント上回っている。</p> <p>○「憲法改正の手続き」についての理解を問う問題では、市の平均正答率を10.3ポイント上回った。</p> <p>●領域の平均正答率は、市の平均正答率を全ての設問で上回った。</p> | <p>・憲法改正など成立の過程が大切なものは、図を用いてまとめ、引き続き知識の定着を図っていく。</p> |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と式 | 83.5 | 76.0 | 69.0 |
| | 図形 | 89.7 | 80.5 | 67.7 |
| | 関数 | 71.3 | 61.6 | 55.0 |
| | データの活用 | 79.6 | 66.5 | 56.4 |
| 観点別 | 知識・技能 | 83.6 | 75.1 | 69.4 |
| | 思考・判断・表現 | 76.7 | 65.6 | 47.1 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

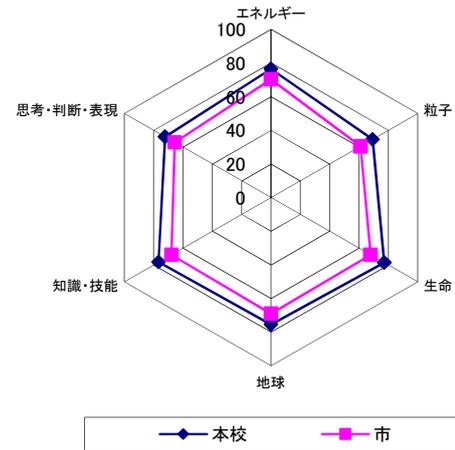
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|---|---|
| 数と式 | <p>○領域の平均正答率は、市の平均正答率を7.5ポイント上回っている。</p> <p>○式の計算や平方根、方程式の問題では、正答率が80%以上で市の平均を上回っており、基本的な計算力が身に付いていると言える。</p> <p>●乗法公式の利用の問題では、市の平均は上回っているものの、全国平均を12.3ポイント下回った。</p> | <p>・基本的な計算の技能は、身に付いている。今後も、日々の授業の中で繰り返し指導していく。</p> <p>・利用の問題に対して苦手意識のある生徒が多い。基本的な計算で終わるのではなく、そこから発展的な考えに繋がるように定期的に授業で取り上げていく。</p> |
| 図形 | <p>○領域の平均正答率は、市の平均正答率を9.2ポイント上回っている。</p> <p>○辺や点の位置関係、図形の移動、角の大きさなどの問題では、正答率が85%以上で市の平均を上回っており、知識・技能の定着が図られている。</p> | <p>・図形は、性質や公式をしっかりと暗記している。今後は単なる暗記ではなく、その意味を理解した上で多様な問題に活用できるように指導していく。</p> |
| 関数 | <p>○領域の平均正答率は、市の平均正答率を9.7ポイント上回っている。</p> <p>○関数の立式や変域、グラフの読み取りなどの問題では、正答率が70%以上で市の平均を上回っており、表・式・グラフの関連付けができていくと言える。</p> <p>●比例の関係の問題では、市の平均は上回っているものの、全国平均を4.8ポイント下回っている。</p> | <p>・式や変域などを求める基本的な技能は、身に付いている。今後も、表・式・グラフの相互関係を意識するよう指導していく。</p> <p>・関数の有用性を感じてられない生徒が多い。その有用性を感じられるように、身の回りの事象を授業で取り上げていく。</p> |
| データの活用 | <p>○領域の平均正答率は、市の平均正答率を13.1ポイント上回っている。</p> <p>○球を取り出したり、代表を選んだりする確率の問題では、正答率が85%以上で市の平均を上回っており、基本的な技能の定着が図られている。</p> <p>●箱ひげ図の読み取り問題では、市や全国の平均を上回っているものの、正答率が64.3%であった。</p> | <p>・基本的な確率を求める技能は、身に付いている。今後は、場合の数が多い問題について、数え上げの効率化を意識するように指導していく。</p> <p>・考えを言語化できない生徒が多い。数学用語の使用や根拠の明確化を意識した上で自身の答えを述べるように、日々の授業で指導していく。</p> |
| | | |
| | | |

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | エネルギー | 76.5 | 70.3 | 59.4 |
| | 粒子 | 69.3 | 61.1 | 56.4 |
| | 生命 | 77.2 | 67.9 | 62.7 |
| | 地球 | 75.5 | 69.1 | 65.6 |
| 観点別 | 知識・技能 | 76.7 | 67.9 | 63.8 |
| | 思考・判断・表現 | 72.3 | 65.7 | 57.6 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

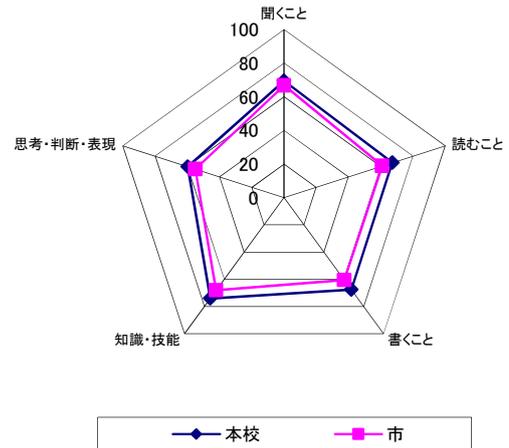
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| エネルギー | ○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.2ポイント上回っている。 ●コピー機のしくみについて、粉末インクが付着する部分と付着しない部分の違いを、電気の性質に着目しながら説明する問題では、正答率が46.9%と低かった。 | ・情報の抽出・活用能力を高めるため、図表等を用いた視覚的整理の場を設ける。データの規則性の発見や取捨選択のプロセスを反復し、情報活用能力を段階的に育成する。 ・科学的な事象を理解していても、それを論理的な文章に再構築することに課題がある。そこで、授業の振り返りにおいて、根拠と結論を明示した記述を促し、個別の添削指導を継続することで、自らの考えを正確に伝える表現力を育成したい。 |
| 粒子 | ○領域の平均正答率は、市の平均正答率を8.2ポイント上回っている。 ●グラフの情報を正しく抽出し、選択肢の妥当性を検証するプロセスに課題が見られた。特に、複数のデータから根拠を見出し、論理的に判断する力の育成が必要である。 | ・グラフ読解における手順の定型化(軸の確認、変化の言語化)を図るとともに、選択肢の正誤をグラフ上の根拠と紐付けるトレーニングを導入する。複数の資料を比較・照合し、事実に基づいた妥当性を判断する場面を継続的に設定することで、論理的思考力を養いたい。 |
| 生命 | ○領域の平均正答率は、市の平均正答率を9.3ポイント上回っている。 ●遺伝子の組み合わせといった微視的な事象や抽象的な概念の理解に課題が見られる。 | ・生徒がつまづきやすい目に見えない現象については、モデルカードやデジタル教材を活用して、具体的なイメージをもてるように工夫する。単に知識を覚えるだけでなく、図や表を使って自分の考えを整理する習慣を身につけさせることで、難しい概念も論理的に理解できる力を養っていきたい。 |
| 地球 | ○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.4ポイント上回っている。 ●気象の領域において、気圧配置と大気の動きを関連付けて、空間的に構造を捉える力に課題が見られた。 | ・低気圧の構造を立体的に捉えさせる際には、3Dアニメーションやモデルを用いた視覚的な指導を強化する。気圧差による流動と地球の自転の影響を段階的に関連付け、風の吹き込み方を論理的に導き出すプロセスを反復することで、空間的な構造理解を定着させたい。 |
| | | |
| | | |

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 聞くこと | 69.5 | 66.8 | 61.5 |
| | 読むこと | 67.2 | 60.9 | 55.5 |
| | 書くこと | 67.7 | 60.5 | 50.9 |
| 観点別 | 知識・技能 | 74.1 | 68.1 | 64.1 |
| | 思考・判断・表現 | 59.7 | 55.0 | 45.2 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|------|---|---|
| 聞くこと | <p>○領域の平均正答率は市の平均を2.7ポイント上回っており、基本的な単語の聞き取りや、短い対話文から情報を抽出する基本的なリスニング力はついていると考えられる。</p> <p>●他領域(読むこと+6.3、書くこと+7.2)に比べ、市平均との差が最小で、文字を読めば理解できる内容でも、音声として一度流れるだけの情報を整理し、判断を下す「思考・判断・表現」のプロセスに課題がある。</p> | <p>・教科書の英文を一文聞き、そのまま繰り返す「リプロダクション」などで単なる「音の聞き流し」を防ぎ、聞いた情報をとどめて、リスニングの持久力を養う指導などを行う。</p> <p>・問題に取り組む際、5W1Hをメモし、単に正解を選ぶだけでなく、聞き取ったメモをもとに正確な理解を確認することで、書くことや他の技能と関連づけ、よりバランスの良い英語力の向上を図る。</p> |
| 読むこと | <p>○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.3ポイントと大きく上回っている。</p> <p>●数値は高いものの、単語の意味を追う「逐語訳」になっている可能性があり、文章全体から筆者の意図を読み取ったり、複数のパラグラフから情報を整理して結論を導きだす「深い理解」へのステップアップが期待できる。</p> | <p>・情報検索や概要把握を強化するために、タイトルや各段落の1文だけを読み、文章全体の要旨を予想させて、速読力を養う。</p> <p>・クリティカルリーディング力を育成するために、事実と意見を読みながら仕分けして、読解と思考をリンクできるような読解力を伸ばす指導を行う。</p> |
| 書くこと | <p>○領域の平均正答率は、市の平均正答率を7.2ポイント上回っており、基本的な文法、文構造のルールが高いレベルで定着している。</p> <p>●正確な文を書く力は高いものの、観点別の「思考・判断・表現」の数字から、定型文の再現に留まっている可能性があるため、自分の意見をサポートする理由をあげて段落を表現したりする、一歩進んだ「表現の質」の向上が課題だと言える。</p> | <p>・高い「正確性」を維持しつつ、より自律的で論理的な「発信力」を育てる指導を行う。</p> <p>・「パラグラフ・ライティング」で文章の骨組みを意識させ、伝わりやすいまとまりのある文を書く力を養う。</p> <p>・時間を区切って何語書けるか挑戦する「クイック・ライティング」などで間違えないように書く姿勢を維持しながら、素早くアウトプットする訓練を通して、思考と表現のスピードを同期できる力の向上を図る。</p> |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立星が丘中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|----------------------------|--|---|
| ・多面的に考え、自らの考えを進んで表出する生徒の育成 | ・各教室に据え置きしたホワイトボードの活用ならびにClassroomや学びポケットの活用を推進する。 | 「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」に対する肯定的な回答の割合は、1年生が76.4%で市の平均を上回った。2年生が82.9%で市の平均ならびに前年度を上回った。3年生は76.1%で市の平均を下回ったが、前年度を上回った。 |
| ・本時のねらいを共有し、意欲をもって学ぶ生徒の育成 | ・各授業において【本時の目標】を提示し、そのねらいに即した授業の展開をする。 | 「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」に対する肯定的な回答の割合は1年生が91.3%で市の平均と同じである。2年生は94.8%で市の平均を上回ったが前年度を下回った。3年生は93.1%と市の平均ならびに前年度を上回り、学ぶ楽しさを感じ、意欲をもって学ぶ姿勢が見られる。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学力調査の結果、ほとんどの教科・領域で正答率が市の平均を上回る良好な状況にある一方、家庭学習にける時間は十分とは言えず、「授業で習ったことをその日のうちに復習している」に対する肯定的回答は、2年生は市の平均を上回っているが、1・3年生は下回るなど家庭学習の習慣化に課題が見られる。そのため、習ったことをその日のうちに反復して学習することを、日々の授業の中で指導し積み重ねていく必要がある。また、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」については、3年生で市の平均より低くなる結果となった。「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」に対する肯定的回答も、1年生94.3%、2年生92.7%、3年生87.2%と、1・2年生は市の平均を上回ったが、3年生は市の平均を下回った。今後は、既に定着しているタブレット端末の活用をさらに一歩進め、授業内での意見交換や協働的なスライド作成を通じた「主体的・対話的な学び」の場面を工夫することで、生徒が自信をもって自分の考えを広げ深められるよう、指導と支援を充実させていく。